

首席御殿医四代目石崎正達はこの殿の意をくんで蘭法医
斎藤玄正を町医から御殿医に推薦している。

天保一一年一月石崎と斎藤は刑場において打首死亡し
た罪人の解剖を行って、絵師高倉東湖という人に解剖図を
写生させ、彩色をほどこした。又各臓器別に分類し、すべ
てに名称を付した。現在刑場跡および斎藤玄正の住居場所
は判明し、石崎正達は演者の先祖である。ただ高島東湖に
ついては事跡がわからない。

各臓器の名称の大部分は現在と殆ど変りがない。おそら
く、このときより七〇年前杉田玄伯等によって千住小塚原
で行われた解剖と、解体新書の訳が利用されたものと思わ
れる。

現物は東京都在住の荒川氏の所有になっているが、その
理由は私の母が明治年間に荒川氏の祖父に与えたものであ
る。

(独協医科大学)

長崎浩齋著『蘭学解嘲』と小石元瑞 について

津田進三

『蘭学解嘲』は越中高岡の蘭方医長崎浩齋が、その師大
槻玄沢の著した『増訂解体新書』の附録下巻の記事に触発
されて、漢方医からの蘭方医学批判に答える意図で著され
たものである。

長崎浩齋は寛政一一年九月七日高岡に生れ、高峯幸庵に
学んだあと、文化一四年(一八一七)江戸に出て大槻玄沢
と杉田立卿に師事し、蘭方医として加越能三州に頗る高名
であった。元治元年(一八六四)九月一四日六六歳をもつ
て没したが、『近代著述目録後編』には『和蘭医学解嘲』、
『医話』、『医学物語』など九種の著作が挙げられている。

一方、浩齋は師事せんとして果せなかつた杉田玄白への
尊崇の念が厚く、文政三年(一八二〇)杉田玄白の三年忌
に出席した浩齋は、同年九月大槻玄沢から『蘭東事始』の

写本を贈られている。同写本は長崎家に現存し、金沢市立図書館蒼龍館本の祖本であり、恐らくは京都市小石家小石本もこの転写本と思われるようである。

さて『蘭学解嘲』は、その自序によれば京から帰った友人が後藤良山の子孫の聖民の著を贈ったところ、わが高祖（長崎玄澄）も良山と同郷で没年も似ることを思つて発憤し、本書の執筆を思い立ったという。時に浩齋三四歳の天保三年三月一八日と記されている。又本書は題簽に『蘭学解嘲稿本』とあり、未定稿であるが、天保三年の津島俊の序と、天保一〇年の岡田英之の叙及び五十嵐篤好の跋を附している。

凡例をみると「先須取重訂解体新書附録 而熟読其下卷 自八頁至一八頁凡六章 最着意而後読此篇」とあり、「各篇之末附愚按評之」と記されている。本書は漢方医から蘭方へ向けられた批判が「或嘲詰或疑問不遑一々辨解」のため、「抄騰先輩所論為一冊」とし、これを示して批判に答へんと意図したものであつて、大槻玄沢のそれを敷衍する形式をとつたようである。

本書はつぎの諸書を墨書抄録し、それに朱字をもつて注

と考按を附している。即ち

藏志（乾之巻）

同（梁峴岩復三東洋翁書）

非藏志

読山脇君藏志并附録

辨斥医断

救弊医話

医官文稿（巻二、三因方條）

和蘭全軀内外分合図（跋）

解屍編（序）

解体発蒙（題言、第三則）

傷寒外伝（巻之下、蛮説）

子玄子産論

解体新書（巻之四、妊娠篇）

医贖（上）

西説内科撰要（序）

解体説（洛医彙講巻一）

蘭療説（洛医彙講巻三）

医学院学範（巻三、蛮医法）

山脇尚徳

佐野安貞

田中栄信

田中愿仲

赤沢貞幹

望月三英

清水 剛

河口信任

三谷 樸

橘 南谿

賀川玄悦

杉田玄白

丹波元簡

丹波元簡

堅田絨蔵

百々俊道

畑 柳安

窮理外科則（附言）

菊谷芳滿

蘭方枢機（序）

丹波頼理

佐藤一斎言志録

五井蘭洲瑣語（上）

長崎浩齋はこれらの諸書を抄録して考按を附したが、その頭注の多くは小石元瑞によってなされている。浩齋は小石元瑞を大槻玄沢同門の先輩として尊敬し、天保五年には元瑞に師事している。このため小石元瑞は天保八年（一八三七）一〇月一七日高岡の浩齋を訪ねて、本書の校注を行なったのである。

小石元瑞の朱注はさすがに博識であり、率直で真剣な意見を記している。風土の違いを説く者には南「北帯度之説 当時斥蘭学者之常語、勉排之者 京師而我先人一人而已」と記し、解屍の無意味を唱える者には「死者無神 祝之無益 死也藏亦転倒 是非解剖者之常言套語」と批判すると共に「蘭俗立科定等甚敵……解剖是学医者之起業第一等 固去治甚遠……生理病理不得楷梯則其於治亦唯此人之輩而已」と教育者の信念をのぞかせている。また医は賤技との論をみるや「医術何賤有之 我邦漢土悉曇医祖皆王者也

此輩所言皆自賤」と強い矜持を示す一方、名利を貪る者ありとの批難には「先人乃余 深惡此等之人 而嚴戒論学生」とし、「従事蘭医学者不可不常存斯心也」と自戒している。

長崎浩齋の『蘭学解嘲』は儒学にも造詣深い浩齋が、漢蘭いずれにも偏せず、よくその所信を述べたものといえるようである。

（静岡鉄道健診センター）